



Nara
Women's
University

Today

編集：奈良女子大学広報企画室

第10号
2008.6.1

奈良女子大学は2009年（平成21年）5月に創立百周年を迎えます



本学は明治41年に設立された奈良女子高等師範学校を前身として昭和24年に新制大学として発足しました。奈良女子高等師範学校の授業開始日である明治42年5月1日を開校記念日と定めており、ここを起点として来年の5月1日には創立百周年の大きな節目の年を迎えることになります。また、来年度は平成16年度にスタートした法人化第一期六年間の最終年度にもあたり、第二期に向けた準備期間でもあります。このような節目の年にあたり、本学がこれまで歩んできた長い歴史の道筋を振り返りながら、将来を展望する必要があります。この意味からも、創立百周年記念事業を一過性のものに終わらせるのではなく、これを契機にして新たな発展に向けたスタートを切ることが大切であろうと考えています。法人化以降、教育や研究の強化に向けた基盤整備を行ってきていますが、これをより一層推進し、「女性人材育成の拠点形成」を中心的な目標に置き、この目標に向けて研究や社会連携を有機的につないでいくことを目指しています。法人化以降、財政面では厳しい状況にありますが、この目標に向けて様々な知恵を出し、工夫をしていきたいと考えています。

このような取組みの一環として、「奈良女子大学基金」の創設を行い、女性人材育成機能の一層の強化を目指しています。関係の皆様方のご協力・ご支援を賜りますようお願いを申し上げます。このような諸活動を通じて、社会の中での本学の役割を強く意識しながら、一層存在感のある大学となるよう努力したいと考える次第です。

平成20年6月

奈良女子大学長 久米健次

▶創立百周年記念事業のホームページを立ち上げました。トップページ左下のバナーからお入り下さい。記念行事の予定等を逐次掲載していきます。



▶創立百周年を記念した写真集の発刊を予定しています。出来ましたら、記念事業ホームページなどでお知らせします。



加須屋教授による講演

「描かれた奈良」、岩崎生活環境学部教授による「近代にイメージされた奈良朝服飾」の講演のほか、講演の前後に学生サークルの音楽部、箏曲部飛鳥会、ピアノフォルテによる演奏が行われました。

また、同窓会佐保会との協賛行事として、5月17日（土）佐保会館2階大ホールにおいて、久米学長による講演会「光にまつわるこの百年」と題し、この百年間に起こった自然科学の革命的な発展の話にとどまらず、光を介した芸術散策談などが披露されました。

今後の創立百周年記念行事をご期待ください。

一創立百周年記念行事・イベント

創立百周年記念行事一環のイベントとして、5月1日（木・創立記念日）に記念館2階講堂において、特別講演会「よみがえる奈良文化」が行われました。当日は、久米学長



箏曲部飛鳥会



久米学長と川崎理事長

駅サインボード

近鉄鶴橋駅、阪神三宮駅構内に本学の認知力をアップする目的で駅サインボードを設けました。

鶴橋駅は、JR環状線から近鉄奈良行きホームに下りる階段のところに、また、

平成21年春の阪神なんば線の開通により、神戸～難波～奈良が乗り換えなしでつながることから、阪神三宮駅の梅田方面降車ホームに設置しました。



阪神三宮駅



近鉄鶴橋駅

ホームページ・リニューアル

大学ホームページをアクセスしやすく、より見やすくなるように4月にリニューアルしました。また、大学院人間文化研究科と生活環境学部が昨年10月、理学部が1月、文学部が4月と各部署もそれぞれリニューアルしました。



金融機関との産学連携に関する協定



調印式

平成19年11月22日(木)に三井住友銀行及び南都銀行と、平成20年3月13日(木)にはりそな銀行と産学連携について協定を締結しました。

本学は、小規模ながら基礎から応用までの幅広い教育・研究が行われており、産学連携や社会貢献に資する多くのシーズを持ち合わせています。これまでも、多くの企業との共同研究が行われ、大学承継の知的財産の実績も、すでにいくつか存在しています。これをさらに広く金融機関と協力して、社会に還元し、活用していきます。また、女性の高等教育の拠点としての視点から、産学連携活動を通じて、複雑化する社会で積極的に活躍できる人材の育成を図り、社会に貢献していくことを目指します。具体的には、奈良を初めとした地域経済の活性化のための地元企業との交流、本学の知的資源の全国へ向けての発信、産学連携と連動した教育活動の展開などを目的としていきます。



大学機関別認証評価

国・公・私立大学(短期大学を含む。)及び高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関の実施する評価を受けることが義務付けられています。

本学は、独立行政法人大学評価・学位授与機構による平成19年度実施大学機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価を受け、平成20年3月27日、「奈良女子大学は、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」と評価されました。



地域貢献事業実施報告書

平成15年度以降、本学はさまざまな地域貢献特別支援事業を展開してきました。このたび平成19年度事業の概要と成果を取りまとめた「奈良女子大学地域貢献事業実施報告書平成19年度」を刊行しました。



健康運動指導士養成校に認定

生活環境学部生活健康・衣環境学科及び文学部人間科学科が平成20年度より健康運動指導士養成校に認定されました。

健康運動指導士とは、個人の体力や生活に応じて、安全で効果的な運動プログラムを作り、指導する職業です。高齢化社会を目前に、健康増進センター、保健センター、老人福祉施設などで、健康運動指導士の需要が高まっています。

健康運動指導士の資格は、健康運動指導士養成校の養成講座を修了、又は、健康運動指導士養成講習会を受講した上で、健康運動指導士認定試験に合格し、健康運動指導士台帳に登録され、取得することになります。

「女性研究者支援モデル育成」事業活動状況

－生涯にわたる女性研究者共助システムの構築－

科学技術振興調整費による本事業(3年間)の2年目が終わりました。平成19年度は子育て支援システムのモニター試験運用を実施し、本年4月から運用を開始しました。昨年度に引き続いて、子育て支援サポーター養成講座を開講(計10回)、教育研究支援員制度を実施し、出産・育児・介護に関する学内の規定をまとめた冊子を配布、母性支援相談室でカウンセラーによる相談業務を行いました(5月より相談室はH棟に移動)。キャリア形成・維持のための講演会(計8回)や女性研究者交流シンポジウムの開催、小中高一般向けの科学講座の開講(計15回)、男女共同参画実現へ向けた意識啓発のための講演会も実施し、アンケート調査も行いました。平成20年度も、地域の子育て支援者や他研究機関の女性研究者支援担当者と情報交換を行いながら、生涯にわたる女性研究者の共助支援を推し進めていきます。



高校生対象の科学実験講座

「研究紹介集・2007－2008」

本学教員の研究活動の概要が分かりやすく記載されています「研究紹介集2007－2008」を刊行しました。

ご希望の方に送付しますので、社会連携センターまでお申し出ください(郵送料を負担願います)。



平成20年度役員紹介

●役員会

学長	久米 健次
理事(企画・研究担当)・副学長	清水 哲郎
理事(教育・学生支援担当)・副学長	井上 裕正
理事(管理運営担当)・事務局長	吉野 正巳
理事(非常勤)	本田 元子

●監事(2名)

業務監査担当(非常勤)	岡 秀松 氏
会計監査担当(非常勤)	上野 祐子 氏
(株式会社マーケティングダイナミクス研究所代表取締役)	

●経営協議会委員(10名)

学長	久米 健次
理事(企画・研究担当)	清水 哲郎
理事(教育・学生支援担当)	井上 裕正
理事(管理運営担当)	吉野 正巳
理事(非常勤)	本田 元子
(学外有識者(五十音順))	
河井 規子 氏(木津川市長)	
志水 義文 氏(助日本調停協会連合会参与、 摂南大学法学部客員教授)	
田代 和 氏(近畿日本鉄道株式会社相談役)	
中西 進 氏(前京都市立芸術大学長、 奈良県立万葉文化館長)	
鷲塚 泰光 氏(元独立行政法人国立博物館理事、 元奈良国立博物館長)	

●教育研究評議会評議員(18名)

学長	久米 健次
理事(企画・研究担当)	清水 哲郎
理事(教育・学生支援担当)	井上 裕正
理事(管理運営担当)	吉野 正巳
文学部長	出田 和久
理学部長	野口 哲子
生活環境学部長	磯田 則生
人間文化研究科長	野口 誠之
附属図書館長	坂本 信幸
附属学校部長	中島 道男
教授(文学部選出)	佐久間春夫
教授(文学部選出)	三野 博司
教授(理学部選出)	塚原 敬一
教授(理学部選出)	富崎 松代
教授(生活環境学部選出)	今岡 春樹
教授(生活環境学部選出)	小城 勝相
教授(人間文化研究科選出)	今井 範子
教授(人間文化研究科選出)	岩淵 修一

第2回モノづくり連携大賞「特別賞」



受賞式

地域色豊かな取り組みと評価され、「特別賞」を受賞しました。

また、本受賞を記念して、グラタン、肉巻揚げ、奈良漬チョコ等の奈良漬を使った15品目をとりあげた「奈良女子大生による奈良漬レシピ」を作成しました。



日刊工業新聞社主催「第2回モノづくり連携大賞」に、本学からの地域資材(奈良漬)展開プロジェクト(本学以外に奈良県、植村牧場、JA奈良支店朝市組合、奈良漬店5店等)は、奈良漬に学生の感覚とアイデアでアプローチした地

耐震改修工事等



耐震補強されたD棟



A棟屋上

理学部A、C棟、生活環境学部A、D棟、第2体育館の耐震改修工事が完了しました。C棟、D棟とも耐震工事に合わせ、授乳室としても利用できるフィッティングルーム等を備え、A棟では屋上緑化事業を行い、温暖化にも対応しています。

また、合宿所の建替え工事も終了しました。1階は、和室、調理室、ロッカールーム、シャワールーム等からなり、2階は和室4部屋が連なる、課外活動にとって貴重な施設ができました。



合宿所

公開講座のご案内

(<http://koto.nara-wu.ac.jp/1/e/info4.html>)

平成20年度は下記の公開講座を開設しています。すべて無料です。申込方法等詳細はホームページをご覧ください。

■ 講座名	■ 開催日時	■ 受講対象
情報化社会におけるコミュニケーションと対人関係	6月21日(土)・28日(土) 13:00～15:00	一般 50人
遺伝子解析の方法を体験しよう-バイオインフォマティクスとは?-	8月5日(火) 9:00～17:00	教員 10人
数学拾い読み	8月8日(金) 10:00～15:00	一般・教員 60人
大気中の二酸化炭素が増えている	8月9日(土) 13:00～15:00	一般 50人
新しい生活習慣病の予防対策を考える	8月23日(土)・30日(土) 10:00～16:30	一般・教員 100人
メタボ予防は禁煙から	9月6日(土) 13:30～15:00	一般 50人
物理とコンピューター	9月27日(土) 10:30～14:30	一般・教員 50人
地域の防災・減災を求めて-奈良県・紀伊半島を例に-	9月27日(土)・11月29日(土) 13:30～17:00	一般 50人
文化遺産&芸術文化-社会学の視点でみる-	10月17日(金)・24日(金) 18:00～19:30	一般 50人
仏教美術と桜	10月18日(土) 13:30～15:00	一般 200人
宇宙から見た自然環境とくらし	11月15日(土) 13:30～15:00	一般 80人
橿原の万葉歌	11月22日(土) 13:30～15:00	一般 100人

ひな人形展

旧暦の桃の節句に合わせたひな人形展が佐保会館、記念館で行われました。4月5日(土)～11日(金)、佐保会館1階大広間において、昭和初期に佐保会各支部より寄贈された雛人形や郷土人形のうち、今回の特集「鹿児島県の人形」薩摩糸雛、薩摩藩主島津家の家紋入り人形、土人形等を中心に、



記念館2階講堂

各地の雛人形・郷土人形数十点が展示されました。

続いて12日(土)～15日(火)には、記念館2階講堂において、正面壇上の雛飾りのほか、雛道具、市松人形、櫛等が展示され、多くの来館者でにぎわいました。



佐保会館1階大広間

平成20年春の記念館一般公開

春の記念館一般公開が4月29日(火)～5月6日(火)に行われました。

今回の特別展示は、「古梅園版木と版画家宮田渚の仕事」と題し、奈良の墨の老舗・古梅園の250年前の本の版木や、宮田画伯の南都八景、本学記念館等の版画が2階講堂に展示され、期間中には木版刷実演や、内田人間文化研究科教授による「南都八景」の解説がありました。



特別展示の版木



内田教授による解説

管弦楽団トリビュートオーケストラ

奈良女子大学管弦楽団トリビュートオーケストラが3月10日にチェコ共和国プラハのスメタナホールで単独演奏会を開催しました。奈良女子大学管弦楽団トリビュートオーケストラとは、本学の学生を中心とし、楽団OG、一般からの演奏者が集結して作られた総勢80名を越える夢のオーケストラです。さらに現地ではチェコ・プラハ管弦楽団のメンバーも演奏に加わりました。楽団を有する国内の有名大学でも海外公演は稀で、さらに奈良県下のオーケストラが海外公演を開催するのは初めてのことです。

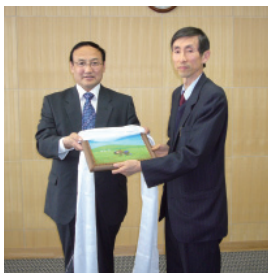
国際交流協定締結

—中国 内蒙古大学蒙古学学院と新たに部局間交流協定—

12月25日(火) 内蒙古大学蒙古学学院<中国>と生活環境学部および大学院人間文化研究科との部局間交流協定を締結しました。同大学とは、従前からの研究交流の実績に基づき、今後も活発な交流が行われることが期待されます。

これにより、本学が交流協定を締結している海外の大学は、計30大学(うち部局間協定は5大学)となりました。

国際交流往来



バヤモンド学院長から
記念品の贈呈

☆3月18日(火) 内蒙古大学蒙古学学院バヤモンド学院長一行が、学長を表敬訪問されました。同大学とは協定を締結したばかりですが、研究交流で中心となっている学生の一人が、早速留学に向けて準備中です。一行の訪問の際も、さまざまなサポートに活躍していました。

★2月17日(日)～2月24日(日) 内田文学部教授が、ニュージーランド・オークランド大学で初めて実施した短期英語語学研修(2月16日～3月15日)に同行し、研修の検分と現地担当者との情報交換を行いました。

★3月3日(月)～10日(月)、横山人間文化研究科教授が、協定校の英国・レスター大学およびクイーンマーガレット大学を訪れました。現在、レスター大学には本学から2名の学生が留学しており、今後も継続的な交流が期待されます。



レスター大学キャンパス

☆4月2日(水)、英国・レスター大学から、Michael Green教授が来学され、横山教授や西堀教授とともに、今後の研究者交流について打ち合わせを行いました。近く、実質的な交流が実現するものと期待しています。

☆首都経済貿易大学労働経済学院<中国>一行23名が、4月



小山センター長が大学紹介

10日(木) 本学を訪問されました。記念館において、小山国際交流センター長から本学と本学をとりまく奈良の歴史・風物について説明の後、佐保会館で催されていたひな人形展を見学しました。女子学生

が多いこともあり、美しい人形飾りに歓声をあげ、熱心にシャッターを押していました。このあと、川崎佐保会理事長から佐保会館のご説明をいただき、伝統ある大学の姿を見てもらいました。



川崎理事長からお話

アフガニスタン女子教育支援

—帰国留学生ショートタームリターンプログラム—

国際交流センターでは、「帰国留学生ショートタームリターンプログラム」として助成プログラムを実施しています。1月下旬、平成17年度修了生のディーバ・ユソフザイさんを招聘し、当時の指導教員らによる研究セミナーの実施や、研究設備の見学・研究発表の聴講などを通して約1週間、再教育の機会を提供することができました。ディーバさんは、現在母国アフガニスタンのカブル大学に復職し、カブル大学女子学生のためのコンピューターセンター長を務めています。



久米学長との懇談

また、同時期にアフガン科研究研究会主催のアフガニスタンシンポジウムなどが実施されています。詳細は、大学HP <http://www.nara-wu.ac.jp/Afghanistan/> や国際交流センター NewsLetter Vol.10 で紹介しています。

学長主催修了等留学生懇談会

2月13日(水)、学長主催の卒業・修了外国人留学生懇談会が実施されました。3月に卒業・修了予定の留学生や自国に戻る交換留学生を囲んで、和やかに歓談が行われました。清水副学長から一人一人に記念品が手渡され、井上副学長から本学卒業生として社会で活躍されることを祈念したエールが送られました。感謝の言葉を述べる留学生の顔は、みな誇りに輝いていました。



卒業・修了生と記念撮影

大学教育の国際化推進プログラム連続採択

—奈良女子大学長期海外留学派遣プログラム—

本学の学生等を海外に長期派遣し、海外の大学院等において学位取得等を目的に研究することやアジア地域における研究支援のための本学プログラムを策定して申請したものが、平成20年度も採択されました。今年度は、平成19年度に米国ペンシルベニア大学に派遣した学生の支援を継続するほか、1名の大学院学生を英国オックスフォード大学オーリエル・コレッジに派遣する予定です。

編集・発行 奈良女子大学広報企画室

編集責任者 清水哲郎(副学長)

連絡先 奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742 (20) 3220 Fax 0742 (20) 3205

E-mail admin@jimmu.nara-wu.ac.jp

